ありだし社協だより

あがらが主役
あがらが創る
あがらのまち

2021
3

小学校６年生児童代表が
毎号将来の夢を発信！
１０年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！

将来の夢

宮原小学校　６年生

有田市社会福祉協議会
HP はこちら

社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金と寄付つき商品事業「JUST」による寄付金の一部で発行させていただいています。

第8回 育てよう！福祉の芽　小・中学生作文コンクール

応募総数６７８作品の中から、選考委員会により各受賞作品が決定しました。

優秀賞　小学校中学年の部

宮原小学校　4年
西﨑（にしざき）　俐雄（りお）　さん

「ぼくのがまん」

新型コロナウィルスは初め中国で感せんされて広まりました。ぼくは、日本では広まらないだろうと考えていました。けれど、日本にもコロナウィルスの感せん者が出てきて、どんどん広まってとうとう和歌山県にも新型コロナウィルスの感せん者が出てきました。その事を知ったぼくはきょうふ感に包まれました。なぜならぼくは、保育所の時、肺えんになって入院した事があったので、もしコロナウィルスにかかってしまったら死んでしまうかもしれないと思ったからです。

それから学校がとつぜん休校になり、習い事も休みになりたくさんのイベントも中止になりました。ぼくは、友だちにも会えないしコロナウィルスにもかかりたくなかったので外にはでれませんでした。初めは、テレビを見たりゴロゴロできたのでうれしかったけれど、だんだんする事もなくなってさみしくなってきました。そしてイライラしてきて、ぼくはお母さんに「コロナウィルスのせいでどこにもいけやんし友達とこにも遊びに行けやんやん。」と、いいました。お母さんは、「なんのために学校を休みにしているのか考えてみな。みんなも遊びに行きたいのをがまんしているんやで。」といいました。ぼくはちょっとムカついたけどそう言われてコロナウィルスに感せんしないようにがまんしてる子たちがほかにもいるんだなと思いました。

四年生になって少しずつ学校に行けるようになって今までがまんしていたから友達に会えるようになってすごくうれしかったです。学校では、コロナウィルスに感せんしないようにマスクをして席も少しはなしてじゅ業をしています。きゅうけい時間に外から帰ってきたらうがいや手あらいをこまめにしています。給食の時はとう明のゲージをつけています。今までとはちがう学校生活になり運動会も音楽会もありません。ぼくは、行事がなくなってざんねんだけど学校に行って、友達と会う事が出来るようになってうれしいです。

コロナウィルスはまだまだ毎日感せんがつづいているのでけんなウィルスだと思います。まだまだがまんしていかないといけない事もたくさんあると思います。早くコロナウィルスがなくなっていつもの生活にもどってほしいです。

優秀賞　小学校高学年の部

箕島小学校　5年
垣下（かきした）　昂駕（こうが）　さん

「特別な人生」

今年、「新型コロナウイルス」というとても手ごわいウィルスが発生しました。そのため、昨年までとはちがう特別な一年を過ごすことになってしまいました。

とても世間が大変な一面、家で過ごす時間がふえました。だから、ぼくは家でいる時間に何かできると思い、かべとう立の練習や家のお手伝いを進んでしました。すると、かべとう立ができるようになり、一人でチャーハンを作れるようになりました。洗たくものをほしたりたたんだりもしました。

新型コロナウィルスのえいきょうで、休校になって友達に会えなくなりさびしい思いをしたり、旅行に行けなくなって楽しい行事もなくなってしまいました。だからこそ、友達と会えてとてもうれしかったです。改めて友達のいるうれしさやほこらしさを感じました。

世界中の人達が、新型コロナウィルスが出てとても大変な思いをしています。そんな中今まで通りにめいわくがかかる行いをしている人がいます。自分がどうなってもよくても、他人の人生を考えてみて下さい。相手は平和に生きたくても、めいわくがかかり相手の人生を終わらせてしまうかもしれません。とにかく、今は感染予防をして少しでも人の命を救うことが最ゆう先です。もっと、いまのこのじょうきょうにきき感を持ちながら生きていってほしいです。

東京都では、毎日約二百人が新型コロナウィルスにかかることが当たり前になってしまっています。それをなくすためには少しだけでいいので、今まで以上に新型コロナウィルスに気をつけて下さい。今、ぼくにできる最大の感染予防は「消毒・手洗い・うがい・かん気」です。地いきの人達や家族の健康もとても心配になります。こんな時期でも家族は休まず働いてくれています。だから、ぼくも宿題や感染予防をがんばります。

新型コロナウィルスは、誰かがかん気などの感染予防をしていなかったりするから、どんどん感染者がふえているのだとぼくは思います。今までもたくさんのウィルスや病気が出てきました。しかし、先祖達は乗りこえてきました。だからぼく達もこのききを乗りこえていって、生命を受けついでいきましょう。そうすれば、自分達の子ども、自分達にも未来ができます。それをくり返すことで、地球に人間は存在し続けます。みんなそれぞれ特別な人生を生きています。おたがいに助け合っていけば、このききもきっと乗りこえられると思います。

第8回目となる本コンクールでは、今年度に限り新たなテーマとして、「新型コロナウィルス感染症で感じたこと・考えたこと」を追加し、従来のテーマである「家族や地域について思うこと」と合わせて募集しました。テーマを追加した理由は、新型コロナウイルス感染症により、子どもたちが経験した初めての休校、さまざまな制約の中での生活について感じていることを言語化する作業が「育ち」にとても大切だと感じたからです。募集期間も夏休みから11月末までと幅広くしたため、感染症についての情報はさまざまなタイミングとなっています。

優秀賞　中学生の部

文成中学校　3年
國中（くになか）　翔太（しょうた）さん

「僕の身近な福祉」

去年の冬休み、コロナのために長い休みとなった春休み、そしてこの夏休みの期間にお父さんの仕事の手伝いをしてきました。僕のお父さんは、長い間サラリーマンをしてきていたのですが、5年前に体調をくずしたことをきっかけに会社を辞め農業の仕事を始めました。僕のお父さんは、サラリーマンの経験をいかして、農業でも、違ったことにもどんどんチャレンジするんだということを言っていたので、その意味を確認するためにもいい機会になりました。

この有田という地区に居て、みかんを作る農業ではなく、あえて野菜を中心に頑張っています。作っているのは「ミニトマト」が一番多くて、他にも「なす」や「にんにく」、他にも「ブロッコリー」など作っています。最近は、お父さんもいろんな人と関わりあっているそうで、今年から「はっさく」「しらぬい（デコポン）」も頼まれて作るようになってきています。

お父さんのチャレンジについては、手伝いをしに行ってみないと分からないことが多くありました。その一つが、福祉施設の人たちと一緒になって野菜を作ったりするということです。

これは、お父さんから聞いた言葉なのですが、『農福連携』という言葉があって、これは、農業と福祉の相性がよく、福祉施設で農業をやっていくことがいいんじゃないかということだそうです。お父さんの言う『農福連携』は、少し形が違うそうで、お父さんのような農家が、福祉施設で働く人たちの仕事を作ってあげて、それか、一緒になって仕事をすることで、農業の仕事がたくさんできたらいいなというような考えでやっているんだそうです。

僕は、福祉に来る人たちは、何らかの障害を抱えているので「暗い」「おとなしい」「人とあまり関わりを持ちたくない」というイメージをもっていました。しかし、手伝いのほんの短い時間でのかかわり合いであったのですが、イメージは大きく変わることになりました。それは、初めて顔を合わせたときのことです。僕があいさつをしようとすると、彼らの方が先に、そして元気よくあいさつをしてくれました。これまで、持っていた「暗い」「おとなしい」「人と関わりを持ちたくない」というイメージではないということが分かりました。ただ、その後にこのことをお父さんに話をすると、「彼らは、僕たち以上に真剣にいろんなことを、真正面から受け止めようと生きていると、今の世の中では、不合理なこともたくさんあって、消化できず今のように居てるんだよ。でも、僕たち以上にまじめに真剣に生きている人たちかもしれないよね。」と教えてくれました。まったくその通りだと思います。

別の機会には、お父さんといつも一緒に仕事をしている施設の職員さんともお話をしました。すごく明るくて、ばりばり仕事をする人で、素敵だなと思いました。それと同時に彼らが、障害を持つ人たちのための働く場所を作ってあげているので、彼ら自身も明るく、元気に仕事をすることができるのだと思います。彼らのする仕事でミニトマトを例にすると、彼らは全ての事（種をまく、育てる、収穫する、売るなどなど）を自分でやることは難しいけども、その中のこの部分を一緒にするということであれば、彼らはまじめにコツコツとしてくれるので、いい仕事をしてくれているとお父さんは言っていました。これからは、にんにくの種をばらしたり、植えたり、ナスの場合には、苗を植えたり、主柱を立てたり、収穫したり、売ったりを一緒にやりたいとお父さんは言っていました。そんな、休みの日のちょっとした体験でしたが、福祉というものが、身近に感じることができて、僕の将来のために少しでもきっかけになればいいなと思いました。

芽ばえ賞

初島小学校	5年	川端（かわばた）　新大（あらた） さん	「あたり前の大切さ」
文成中学校	1年	平松（ひらまつ）　瑛斗（えいと） さん	「コロナのせいで、コロナのおかげで」
保田中学校	3年	諏訪（すわ）　みのり さん	「未来を変える為に」

芽ばえ賞を含む6作品の全文は、本会ホームページにも掲載しています。

令和２年度

赤い羽根共同募金

総額

3,565,994 円

（令和3年1月末現在）

今回も市民の皆さま方の温かいご理解と自治会の方々から格別のご協力を賜り、このように心のこもったご寄付をいただきましたことに心より御礼申し上げます。
また、募金箱の設置や職域募金にご協力いただいた事業所の皆さま方、誠にありがとうございました。
法人募金として、次の方々からも温かいご協力を賜りました。

株式会社紀和
株式会社信和
有田交通株式会社
株式会社クリーンテック
株式会社早和果樹園
有限会社ボウキョウ
有限会社宮原自動車
株式会社上岡工業
エム１４１地所
株式会社永遠
ライオンケミカル株式会社
阪本・野上保険事務所株式会社
逢井八角網漁業生産組合
一般社団法人有田市医師会
株式会社近畿コンサルタント
有田生コンクリート産業株式会社
大日本除虫菊株式会社　紀州工場
株式会社東亜プロパン商事
和協会
株式会社上野山塗工所
株式会社サザンクロス
株式会社ヤナセ
株式会社武商
三菱電線工業株式会社
他、匿名希望の方
（順不同、敬称略）

町のみんなで集めた募金は、じぶんの町を良くする活動に使われています

共同募金では、集まった募金の約7割は募金をいただいた地域で使われています。残りの約3割は市区町村を超えた広域的な課題を解決するための活動に、都道府県の範囲内で使われています。有田市の皆さまからいただいた募金は、県共同募金会を通じ、有田市内および県内の様々な福祉活動を支援するために活用されます。
また、募金の一部は災害等準備金として積み立てられ、災害ボランティア活動など被災地支援にも役立てられています。ご協力ありがとうございました。

２回目やで！

学校にいけない・いかない子をもつ

親同士がつながる場

令和３年３月２１日(日)
午後１時３０分～３時頃
ＡＧＡＬＡ　２階

← 参加申込みはこちらからお願いします。
★原則事前申込（3/17まで）
但し、当日参加も受け付けます。
https://forms.gle/RcfSnCL9DpczwBuj6

去る1月24日につながった親御さんたちのリクエストを受け、第2回のつながる場を開催します！また、こういう場に来られない親御さんや、学校や地域の皆さんに状況をお伝えするために、どんなことが話し合われたのかをweb上で公開します。価値観はそれぞれですが、当事者がどんな思いでいるのかを知ることは大事だと考えています。

第１回まとめはこちらのQRコードから→

住民主体のまちかど相談所立上げ支援事業

キックオフ講演会

「市民が動く・楽しむ・支えあう」

講師
大阪ボランティア協会
ボランティアコーディネーター
青山　織衣　氏

岸和田で生まれ育った彼女が、大好きなまちの中で多様な方と出会い対話し、協働してきた体験談。住民として、コミュニティワーカーとして、どんな風にまちと人に向き合ってきたのか、その動き方・楽しみ方を学ぶことから「自分らしい」まちづくり参画の在り方を考える。

日　時　令和３年４月２９日(木/祝)
　　１０時～１１時３０分
会　場　有田市民会館　第１会議室
定　員　３０人（定員になり次第締切）
参加費　無料
申込先　aridashi.shakyo@gmail.com
電　話　0737-88-2750

ありだし社協だより 2021.3
編集・発行　社会福祉法人　有田市社会福祉協議会／有田市ボランティアセンター
〒649-0432　有田市宮原町東215番地　有田市福祉館なごみ内
TEL　0737-88-2750　FAX　0737-88-2033
URL　http://www.naxnet.or.jp/~a-syakyo/